

「神に感謝をささげる人生」

～イエス様が救ってくださる人生とは？～

「よくよくあなたがたに言うておく。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死んだなら、豊かに実を結ぶようになる。自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを保って永遠の命に至るであろう。」
ヨハネによる福音書12章24・25節

先週の「敬老祝福礼拝及び祝賀会」が豊かな神様の恵みの中でなされたこと、愛する兄弟姉妹に感謝致します。主にある交わりの素晴らしさ、教会の中にある愛と赦しの空気はこの世のどの世界にも存在しない、天国由来のものです。次はクリスマスに向けてさらに豊かに成長していきたいと願います。

今朝はヨハネ12章ですが、復活したラザロを囲んで、マルタ、マリヤの感謝の心が溢れました。イエス様はラザロの復活を通して、ご自身がこれから立ち向かう、永遠のいのちの世界を開くために全身全霊を注いでいくことを弟子たちに伝え始めます。

永遠のいのちの世界を開くためにイエス様に必要だったことは、自らを神にささげることでした。このことは、イエス様だけに限ったことではなく、私たちにも必要なことでもあります。この世のことに執着している間は、私たちはその永遠のいのちを体験することができません。しかし、この地上にありながら、自らを神にささげ、感謝しつつ歩む人生は、もうすでにこの世にありながら、永遠のいのち、すなわち、天国のいのちに生きていることになるのです。

それこそが、パウロ自身も求めていたこの世における魂の救いの成就なのです。

「わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であったように、わたしが一緒にいる時だけでなく、いない今は、いっそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。…わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ捕えようとして追い求めているのである。そうするのは、キリスト・イエスによって捕えられているからである。兄弟たちよ。わたしはすでに捕えたとは思っていない。ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標をみざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。」ピリピ人への手紙2章12節、3章12～14節

自分の価値観、生き方を変えるのは難しいことです。ましてや、私たちのすべてを神様に捧げる生き方は到底不可能のように感じます。しかし、私たち自身の人生に起こる出来事の一つ一つ神様に感謝することを心掛けるならば、少しずつ、私たちの心の壁が剥がれ落ちて、新しい自分に造り替えられるようになるのだと感じています。

私たちの内におられる主ご自身をお認めし、そのお方にもっと働いていただきましょう！